

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

| | |
|---|---|
| (整理番号) 044 | 提案機関名 三浦市 |
| 要望問題名 ワカメ養殖の代替養殖品目の創出 | |
| 要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 近年、三浦半島沿岸部において海水温の上昇によりワカメ養殖の栽培可能期間が短くなってきている。また、東京湾側において海水温上昇由来と考えられる西部に分布していた植食生物による食害が発生している。このままでは将来的にワカメ養殖の存続が危ぶまれるため、ワカメ養殖に代わる市場価値のある代替品目を創出していただくとともに、食害の防止策を研究いただきたい。 | |
| 解決希望年限 | ①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内 |
| 対応を希望する研究機関名 | ①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター |
| 備考 | |

| | | | |
|--|---|------|-------|
| 回答機関名 | 水産技術センター | 担当部所 | 企画研究部 |
| 対応区分 | ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可 | | |
| 試験研究課題名 (①、②、④の場合) 沿岸資源管理・増養殖推進事業、水産業推進対策事業、水産業改良普及活動事業、磯焼け対策事業費 | | | |
| 対応の内容等 漁閑期となる冬場のワカメ養殖は、漁業者の重要な収入源となっておりますが、近年、アイゴやボラ、クロダイ等による食害被害が発生するとともに、水温上昇等による生育阻害もあいまって、大きな影響を受けております。食害の防止を図り、養殖筏を網で囲う「食害対策ネット」を設置する試験を行ったところ、対象の未設置筏ではアイゴなどによる壊滅的な食害被害がある中、食害対策ネットを設置した養殖筏では、ほとんど食害被害がなかったというような結果も得られております。引き続き、食害被害の低減に努めてまいります。 一方、新たな養殖品目の検討の一つとして、既存のワカメ養殖筏施設を活用して、中間育成3倍体シングルシード種苗を用いたカキ短期養殖試験を令和4年度から実施しております。 県内の海面には地形的に養殖に適した場所が多くはありませんが、ワカメ筏設置場所は比較的平穏域に設置されており、加えて、台風の被害が少ない11月下旬～6月にかけての半年程度の短期間養殖での出荷サイクルを確立することを目指しております。 マガキの順調な生育が認められる地区もあり、養殖の実用化と生産物の商品化を図る取り組みも行われています。将来的に地域の新たな名産品化を目指す発展的な展開への支援もあわせて行ってまいります。 また、引き続きアカモクの種苗生産についても実施しております。アカモクはワカメ養殖に代わる市場価値のある代替品目として有望であると考えており、昨年度は当センターが生産したアカモク種苗を横浜市、鎌倉市、葉山町、平塚市、茅ヶ崎市、逗子市、三浦市及び小田原市の漁協に供給し、各地においてアカモクの養殖試験に取り組んでいます。今後も各地の要望を取り入れ、アカモク種苗を養殖試験に供給して参ります。 | | | |
| 解決予定年限 | ①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内 | | |
| 備考 | | | |